

木製品のあらゆるニーズに応える会社を目指して

ダイワ産業株式会社 奈良県高市郡高取町

■木製品を作り続けて

1970年に創業したダイワ産業株式会社は、地場産業である配置薬の薬箱を作る会社としてスタートしたが、薬箱の需要が少なくなってきたからは寿司桶を主に作るようになった。

以降、良質な国産材を材料にして木製品を作るというこだわりを持ちつつ、顧客ニーズの変遷とともに、木製品全般の製造を手掛ける業態へと変貌を遂げながら成長していった。

■全ての依頼に全力で応える

現社長の中西正智氏が同社に入社した2005年当時は、寿司桶を主に製造していたものの、ちらし寿司を作る家庭が減り需要が落ち込み始めていた。こうしたなか、同社は新たな需要を掘り起こし、ヒノキのまな板の製造を開始する一方、同氏は小売店に積極的に営業活動を行うなど、営業部門から会社を支えた。

入社して10年程度が経過した頃、同氏は次期後継者



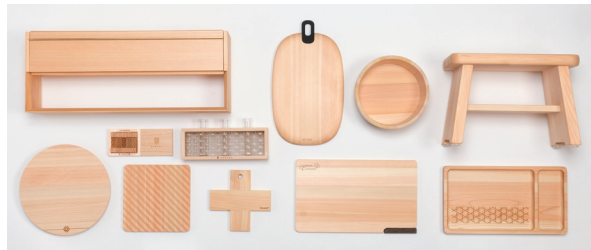
ヒノキのまな板

として専務取締役役に就任し、経営に携わることとなった。「従来のやり方では、更に成長していくのは難しいのではないか」と考え、従来のやり方や常識にとらわれず、会社のスタイルを少しずつ変えていった。

そのひとつが、今では同社の軸となっている“何でもできる会社”を目指すことだった。一般的に木工会社は、作ったことのない商品の製造依頼は断ることが多い。しかし、同社は話も聞かずに断るようなことはしなかった。全ての依頼に対して時間を設けて丁寧に話を聞き、自社でできることは全て対応するということを徹底した。

今まで取り扱いをしてこなかった商品を製造するためには、当然、新たな技術が必要となってくる。そこで同社は、機械設備を揃えることによって足りない技術はカバーできると考え、積極的に設備を導入する方針に舵を切った。

新たな設備を使い、新しい製品を製造することにより、様々な加工ノウハウが蓄積されていった。こうしたことから、類似商品の製造依頼の受注も可能となり、新たな顧客開拓につながり、人と会社が成長できるという好循環を生むことにも成功した。



国産材を使用したノベルティグッズや新たな機械設備で製造できるようになった製品

■“何でもできる会社”を目指して

「今まで取り組んだことがない仕事を当たり前を受けられるような意識が従業員に根付き、会社全体としても着実に“何でもできる会社”に向けて進んでいる。会社として向いている方向が間違っていなければ、売上や利益は必ず後からついてくるし、実際についてきている。従業員たちと力を合わせ、今まで以上に“何でもできる会社”を目指すことを追い求めていきたい。」と語る中西社長の目には熱い思いが込められていた。

(藤岡奨太)

ダイワ産業株式会社

〒635-0123
奈良県高市郡高取町市尾 897-1
TEL: 0744-52-2926
FAX: 0744-52-4487
URL: <https://daiwa70.com>



中西 社長